

平成29年10月2日号(No.180)

「 教育におけるエビデンス 」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

少し前の話ですが、財務省は2016年度の文科省の予算編成にあたり、1年生の1学級あたりの人数を35人から40人に戻し、学級数（教員数）の削減を提案しました。理由は、35人学級で教員の数を増やしたが、問題行動発生件数が減少したとは言えない、少人数制度で学力が向上したとは言えないなど、科学的根拠（エビデンス）がないと主張しました。曖昧な根拠にはお金は出せないというのです。今、教育を「科学」する試みが広がっています。



その科学的根拠について書いているのが、中室 牧子慶應義塾大学准教授の『『学力』の経済学』という本です。この本は、筆者の教育経済学者という立場から教育を経済学の理論や手法を用いて分析した結果が書かれています。例えば、「どういう教育が成功する子どもを育てるか」「少人数学級は効果があるか」「いい先生とはどんな先生か」等をデータで分析（因果関係の有無）し、科学的根拠をもとに明らかにしている本です。

著書の中で日本の教育は、個人の経験に基づくことが多く、科学的根拠がないため、なぜその主張が正しいか十分説明されていない。また、「学校に活気があふれている」など、人によって見方が変わってしまう主観的な表現がよくあると手厳しい指摘をしています。

教育を語る時、中室氏の主張には「エビデンス」の裏付けがあるだけに説得力があります。教育関係者が主張する「教育の効果は数値では測りにくい」という意見や、経験則や主観的な見方では説得に乏しいものがあります。

しかし、教育において「エビデンス」をどう活用するかはそう簡単なことではなさそうです。例えば、著書の中に、「教員研修が教員の質を高めるというエビデンスは多くない」という言葉があります。つまり、教員研修が教員の質に与える因果関係はないに近いというのです。そして、教員の質を高めるには、もともと能力が高い人を採用すればいいと述べています。どうもこの事は、「質の高い教員とはどんな教員か」にあるように思います。エビデンスに基づく教育経済学者のいう質の高い教員とは、子どもに付加価値を与える教員であり、付加価値とは子どもの学力を上昇させること、将来収入を高めていること等だそうです。変化の激しい今の社会にあって、子どもに付加価値を与えるためには、学び続けることが不可欠です。教員の質の向上は、教員自身の学びの賜です。子どもに学び、保護者に学び、同僚に学び、研修会や書物に学び、質を高めていくのだと思います。さて、皆様はどうお考えでしょうか。なかなか興味深い本です。是非、『『学力』の経済学』のご一読を。

参考資料：「学力」の経済学 中室 牧子著

新しい外国語教育?

新学習指導要領により、小学校において、**中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語科」**の導入が始まります。

小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴やよさに気付く指導の充実を目指す必要があります。

学習する内容や時間はどのように変わるのか。いつから、どのように授業に取り組む必要があるのか等を正しく理解し、各校での外国語教育のさらなる充実を目指しましょう。

When いつ?

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
小学校	移行措置 先行実施		全面实施	
単位時間	小3・4・・・年間15単位時間 小5・6・・・年間50単位時間		小3・4・・・年間35単位時間 小5・6・・・年間70単位時間	※中学校全面实施

小学校は平成30年度から移行措置(先行実施)、平成32年度から全面实施になります。

中学校は平成33年度に全面实施となります。

Who だれが?



- 学級担任の教師(または外国語を担当する教師)が指導計画を作成します。
- 授業の実施にあたっては、ALTやJTEの協力を得る等の指導方法の工夫を行いましょ。

How どのように?

ステップ3 「ALTやJTEとのやり取り」を大切に

担任のやり取りが、「英語を使うモデル」になります。わからないことは「ALTやJTEに英語で尋ねる姿」を見ることが大切です。反応も大切に。児童が自然と真似るようになります。

ステップ2 「ほめる言葉を使う」、ALTやJTEの英語の「指示をくり返す」

まずは、「ほめる言葉」を覚えましょう。活動の指示は1回だけALTやJTEに言ってもらい、その後はまねしてジェスチャーを交えながらくり返してみましょ。

ステップ1 「前に立って」、授業の「スタートの挨拶をする」

発声練習など、「ALTやJTEに任せる場面」以外は担任が前に立って授業をすすめましょ。

担任が主導する授業をしよう! ~2学期から実践3ステップ~

What なにを?

学年	小学3・4年生	小学5・6年生
内容	外国語活動	外国語科(教科)
取り扱う英単語数	600 ~ 700語	



中学校
○ 小学校で学んだ語彙・表現を意味のある文脈の中で、コミュニケーションをとおしてくり返し触れさせる。
○ 音声中心で学んだことを、文字に接続させる。
○ 外国語で授業を行うことを基本とする。
取り扱う英単語数 1,200語 → 1,600 ~ 1,800語

<外国語活動の目標>

- ① 「聞くこと」
 - ゆっくりはっきりした英語を聞かせる
 - 身近な事物を扱う
 - アルファベットの読みと文字がつながる
- ② 「話すこと」(やり取り)
 - 挨拶、感謝、簡単な指示のやりとり、自分のこと、身の回りの物について話す
 - ➔ 動作を交えながら、サポートを受けながら(先生・友だち)
- ③ 「話すこと」(発表)
 - 人前で、実物などを見せながら考えや気持ちを話す
 - ➔ 様々なコミュニケーションツールがあることの体験

<外国語科の目標>

- ① 「聞くこと」
 - 短い話(スモールトーク等)の概要を捉えることができる
 - ➔ 中学校「短い説明の要点を捉えることができる」につながる
- ② 「読むこと」
 - “文字が持っている音”がわかる
 - ➔ 音と綴りの関係まで指導しなくてもよい
- ③ 「話すこと」(やり取り)
 - その場で質問したり答えたりできる、伝え合うことができる
 - ➔ 蓄積された英語の話す力・聞く力を駆使して
- ④ 「話すこと」(発表)
 - 伝えようとする内容を整理し、自分の考えや気持ちを表現できる
 - ➔ 中学校「スピーチ」の基礎になる
- ⑤ 「書くこと」
 - 語順を意識しながら(語と語の間にスペースを入れて)書き写すことができる
 - ➔ 日本語との語順の違いへの気付き

<外国語科の活動例 ①>

Activity 日本の紹介をしよう

Let's Read and Write 日本の紹介の文を言って、書いてみよう。

Activity 「話すこと」(発表)

ペアで日本を紹介する内容を決め、作成したポスターをもとに紹介をする。

Hello, I live in Japan.
We have four seasons in Japan.
We have *hanami* in spring.
You can enjoy eating *obento* under cherry blossoms. It's fun. ...

Let's Read and Write 「読むこと」「書くこと」

ほぼ毎時間、例文を音声のあとについて言ったり書き写したりする。

- ① You can enjoy *hanami* in spring.
- ② We have *shogi*.
- ③ We have *sushi*.
- ④ It's delicious.
- ⑤ We have *kabuki*.

<外国語科の活動例 ②>

STORY TIME

Oh, this is a nice *kabuki* pen. I love *kabuki*. How much is it?
90 yen.
May I have ten? Sure.
900 yen for ten pens.

STORY TIME 「聞くこと」

児童はテキストを閉じ、デジタル教材を聞き、聞き慣れた語を発表する。

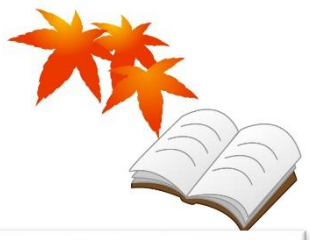
複数回聞いて、内容を理解する。

テキストを開け、意味が分かる語を発表したり、指導者が言う語を指さしたりして、内容を十分に理解する。

外国人観光客:
Oh, this is a nice *kabuki* pen!
I love *kabuki*.
How much is it?
店員: 90 yen.
外国人観光客: May I have ten?
店員: Sure.

カリセンの
部屋から

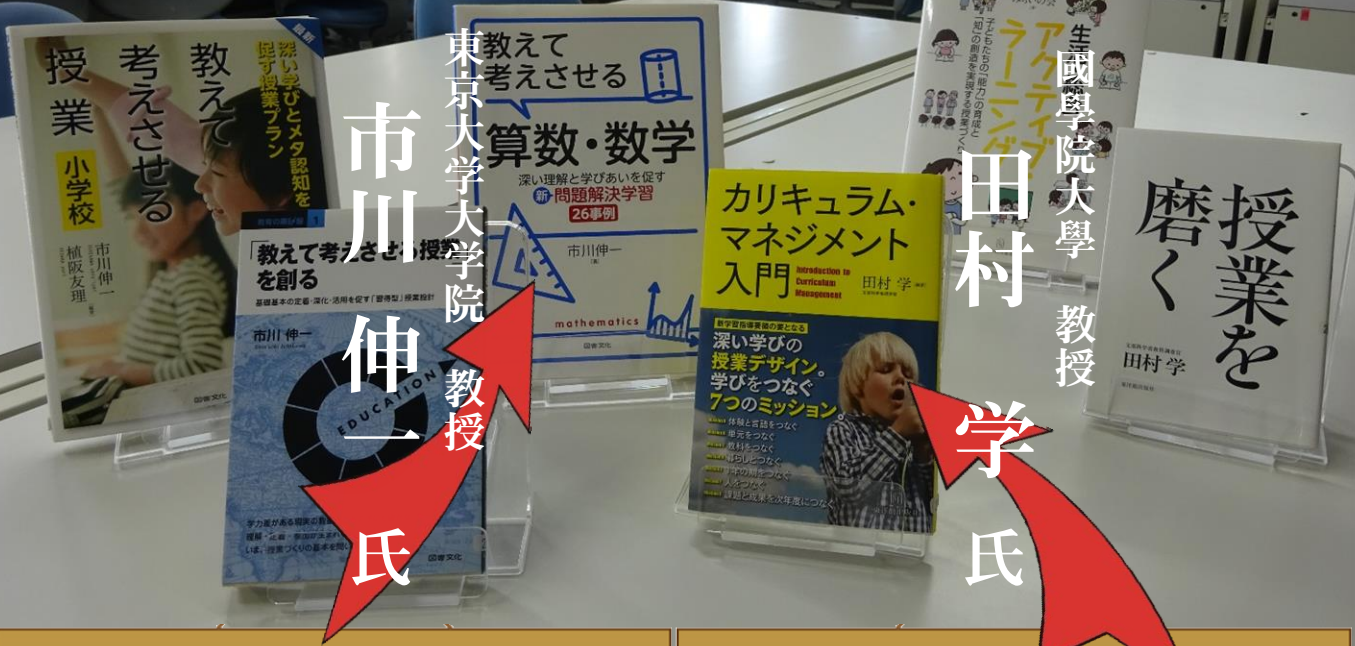
書籍紹介



夏季休業中に総合教育センターで実施した研修でお招きした講師の書籍を紹介します。授業力向上（カリキュラム）支援センターにて貸し出ししています。



他にも**新刊**たくさんあります。
詳しくは総センのwebで。
http://www.itami.ed.jp/?page_id=82



東京大学大学院
市川伸一氏
教授

生國學院大学
田村学氏
教授

教える 考えるさせる 算数・数学
深い理解と学びあいを促す
新問題解決学習 26事例

教える 考えるさせる授業では何を大切にし、そのためにどんな教え方や課題設定をするのか。

すべての子どもたちが、学習の中で基礎的な知識・技能を身につけて高度な課題解決に参加できることや達成感・充実感が味わえることをめざした授業実践の中から26事例が紹介されています。

カリキュラム・マネジメント入門

新学習指導要領の要となる「深い学び」の授業をデザインするためにはどうすればよいか。

学びをつなぐ7つのミッションのつながりを全体構成の基本原則に据え、生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントの実践を通して、教師の働きかたと具体的な子供の姿が紹介されています。